

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム福寿荘	評価実施年月日	平成20年4月
評価実施構成員氏名	南 早苗、本田 あすみ、武田 幸、松村 喜恵子、柴田 健克、太田 浩		
記録者氏名	木村 奏子	記録年月日	平成20年5月13日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念に安心して暮らせる社会づくりを掲げ、日々取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	申し送りの中で、話し合うことがある際には理念に基づき判断するようにしている。	○
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族にはもちろん、地域運営推進会議や町内会等の行事の際に伝えており、理解していただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ごみ投げの際や散歩のときなどでもご近所の方への挨拶を始め、こちらから積極的に挨拶や声をかけるようにしている。又、できるだけ来訪しやすい雰囲気作りにも努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に参加し、出来るだけ地域行事や町内会の集まりには参加するようにしている。また、必要なことがあれば力になっていきたいということもお伝えしている。	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	入居相談をはじめ、入居相談以外でも近隣住民からの相談等でお役に立つことがあればとお伝えしている。	○ こちらからの積極的な働きかけとして、運営推進会議等を通じて今後話し合いの場を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>毎年実施しており、その後も見直しをしている。また、日常的に毎日の申し送りやカンファレンスの中で自己研鑽している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>地域の方々からのご意見や疑問点等あれば真摯にうけとめ話し合いを持っており、サービス内容の検討や日々の地域でのGHの取り組みに反映させている。</p>	<p>○</p> <p>地域の方から福祉マップのようなものがあれば、と御意見があった。今年度町づくりセンターにおいてケアマップ作りを検討しているとお話もあり、協力していくことをお伝えしている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町村の担当者とは会議や電話等の様々な形で行なっている。また、社の代表が市の認知症に関する講演等行なう中で、連携を密に図りサービスの向上に反映している。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度を利用している入居者もあり、制度についての周知徹底を図っている。</p>	<p>○</p> <p>高齢者の権利擁護についての意識をより高めるため、研修への参加に積極的に取り組んでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>周知徹底している。社の理念に基づき権利擁護という視点から努めている。</p>	<p>○</p> <p>日常的に権利擁護に対する意識を高め、新聞・雑誌等からも情報、知識を蓄えていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時にお話を伺いながら、ご説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見は随時話を聞き、可能な限り対応している。ご家族を通し本人の意見・意向を把握していただけるよう働きかけ、またご家族から第3者機関へ相談できるような相談窓口をあらゆる機会にお伝えしている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ご家族が来訪されるたびに生活記録を開示している。遠方にお住まいや頻繁に来られないご家族には電話やお手紙などで近況をお伝えしている。また、毎月請求書と共にホームの様子を記したお手紙を同封している。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を開いており、随時お話を伺っている。また、相談窓口についてのお知らせをその都度している。ホームの玄関口には御意見箱を設置している。ご家族から伺ったご意見等についてはすみやかに会議で検討し対応している。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ間の会議を定期的開催し、スタッフの意見を聞く場を設けている。また、速やかに対応すべき事項については管理者会議にて検討し、対応している。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者が安心して安全に暮らす事を第一に考え、話し合っており、必要なときは勤務時間帯の調整を行なっている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>必要最小限に抑えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎年社内研修を計画し、スタッフの経験年数等に合った研修が受けられるようにしている。</p>	○	<p>それぞれの課題が明確になるような機会を設けていきたい。研修内容もより身近で必要としているスキルアップにつながるような内容に検討している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>事業所同士での連絡を取り合い、コミュニケーションを図る機会が多い。また、スタッフは研修の場での交流を図っている。</p>	○	<p>他事業所を訪問したり研修の場を通してスタッフの交流の場を増やしていきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個人面談や研修の場を通して職員一人ひとりのストレス軽減に努めている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>まず、自分がどうなりたいのか、どうしたいのか、主体性を持ち自立を目指すことを目標として掲げており、折にふれて職員に伝え、働きかけている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の話を聞く、その姿勢を持って関わっている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家庭訪問や来訪時に、家族が困っていること、不安に思っていることなどを傾聴している。必要であれば回数を重ねて、何をどうしていきたいのか、ゆっくりお聞きしていく。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・ご家族それぞれからお話を伺い、何を必要としているのか、必要であればどのようなサービスが良いのか、他の相談窓口等も視野にいれて対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員が家庭訪問を兼ねて訪ねたり、ご家族、ご本人にホームに来ていただき、どんなところでどんな生活をしているのか知ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人としてお互い対等であることを忘れずケアに入っている。また、様々なことを教えていただくことの方が多く、人生における大先輩であるということを実感している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族がどのような思いで本人を支えようとしているのか、来訪時などにお話を伺い、同じ目線で支援できるような関係づくりに努めている。入居者のご家族であれば同じように大切な方と捉えている。	○	ご本人・ご家族とのよりよい関係の構築・継続のためにも来訪時にはご家族の思いを伺える場を設けていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	それぞれの立場からのお互いへの思いや気持ちを伺いながら、必要であれば仲介に入らせていただき関係の継続・再構築の支援に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人から以前親しかった方のお話を伺い、ご家族の協力のもと交流が図れたことなどがある。毎日の生活だけでなく、思い出や大切にしている事(人)の事をお聞きするようにしている。	○	様々な方面から可能な限りのことを支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者一人ひとりの他者への思い・関係性を把握した上で、居間・台所など適宜有効活用しながら、お互いが不快な思いをしないよう努めている。	○	和室の空間を利用し、テーブルをおいて食事やお茶などする場所として設けた。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	いつでも気軽に立ち寄ってもらえるような関係作りに努めている。また、必要なことがあれば契約が切れた後でもいつでも支援したい旨をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や希望について様々な話題から伺うようにしている。可能な限り希望に添えるよう努力している。また、思いや意向を伝えるのが困難な方の場合には本人の思いについて職員間で話し合ったり、ご家族にお聞きするなどして把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族はもちろん、以前利用していた各種サービス関係者からの情報をもとに、一人ひとりの馴染みの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の様子や言動・行動から、本人の出来ること、出来ないことを観察し、本人が無理なく一日を過ごせるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ間のカンファレンスをはじめ、ケアプラン作成時にはご家族への掲示、その際の説明、意見・要望等を伺いながらの作成をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	随時作成し、ご家族からも承諾をいただいている。また、見直す際にはご家族からの意見をいただいている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の生活記録において、また、記録の中の介護計画に対する評価欄へ、実践の結果や気づいたことなど記入するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その方の、その時の状況に応じて、出来る限りの対応をさせていただいている。	○	外出の支援など、御家族だけでは難しい際、スタッフも付き添うなどの対応をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	随時ボランティアの受け入れをしている。また、毎年消防団の慰問を含めた協力をしていただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて区の在宅連絡会議等で話し合っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	主に運営推進会議において、地域包括支援センターの方々とホームの入居者の事、高齢者福祉について話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医との連携を図りながら、本人の希望に応じて必要な医療を受けられるような対応をしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力してくれる医療機関がある。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所の看護師が週一度入居者の状態を診てくれている。協力医療機関の看護師とも24時間連携が取れる体制がある。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時は主治医と連携の取れる医療機関を紹介してもらい、早期退院に向けた話し合いを設けている。認知症についての理解も得られるよう主治医から働きかけてもらっている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に本人・ご家族からの希望を伺っているが、随時本人の状態の変化や認知症の進行に合わせて主治医も交えて話し合う場を設け、関わる全てのメンバーで方針を共有するようにしている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>主治医との連携を取りながら、ホームでできる事をやっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人のリロケーションダメージを必要最低限にするため、お互いのサービス事業所間での情報交換に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報を必要以上に出すことはせず、本人のケアに必要であり且つ本人の為になると判断されるとき以外は、使用していない。また、一人ひとりの言葉の受け止め方を十分に把握し声かけを行なうよう努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常的な会話の中に様々な要素を取り入れながら、本人の思いや希望を伺えるようにしている。また、思いを伝えるのが困難な方はご家族のご協力を頂きながら、その思いや希望について探っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望を聞きながら、出来ることは可能な限り対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が好む服装ができるよう支援している。理容・美容は可能な限り本人の望むところに行けるようご家族にも協力していただいている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の下ごしらえや盛り付け、食後の片付けなど、一人ひとりのできる力を生かせるよう働きかけている。また、食事はスタッフも一緒に食べ、食事で得ることができる満足感や幸福感を共有している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの状況に合わせて本人が食べたいもの、飲みたいものが出来る限り提供できるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	排泄の過程でつまづいている事をアセスメントし、排泄チェック等でトイレでの排泄が可能となるよう取り組んでいる。また、トイレ誘導時の状況を随時スタッフ間で共有し、不快な状態が続かないようないよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調やその日の状況などをふまえた上で、本人と話し合い、時間帯や入浴するか否かを決めている。入浴が分からなくなっている方には出来るだけ環境を整え気持ちよく入浴していただけるようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の疲労具合に応じて、適宜休息を取れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの持てる力を生かした役割や楽しみごととなるよう支援している。(庭掃除や掃除機かけ、食材の下ごしらえなど)	○	アセスメントを繰り返しながら一人ひとりのできる事、活かせる事を探り、具現化していきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力に応じ、時にはご家族の協力を頂きながらお金の所持・使用を支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩・買い物・美容室などの入居者の希望に沿い、可能な限り支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食や買い物など、計画を立てて行っている。	○	一人ひとりのアセスメントを行いながら本人は今どこに行きたいと思っているのか、どうしたら実現できるか、ご家族にも協力いただき検討していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者から希望があれば、受け取る相手にも配慮しつつ支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族らが来訪時には居室でゆっくり過ごせるよう支援している。必要な方には随時和室や居間でも過ごせるよう支援している。	○	ご家族や親しい方たちが又来ようかな、と感じていただけるよう、入居者の方の思いを伝えたり共にゆっくり過ごせるような調整や配慮が必要。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は一切せずケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の鍵はかけていない。玄関は夜間の防犯のために施錠している。時に日中施錠する際にはなぜ必要かをスタッフ間で話し合いながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はスタッフが協力・連携を取り入居者の様子を把握している。夜間は見回りや見守りを徹底している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況に合わせて対応している。見守りを徹底したり、預かったりするなど安易になくしてしまわないようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者一人ひとりのリスクについてスタッフは情報を共有しあいながら安全に過ごせるよう対応している。	○	研修等への参加を通して理解を深めたり知識を得られる場を増やしていきたい。スタッフ間のユニット会議でも取り上げ、より具体的な場面での対応について確認・実施していきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故時の対応手引きを備えている。	○	日常的に、またユニット会議等を通して確認する場を増やしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	近隣の方々との関わりは日常の挨拶や運営推進会議で保っている。推進会議では近隣住民の方からの協力が得られるよう働きかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプラン作成時、現在の本人のADLやIADLについてお伝えし起こりえるリスク、またその対応などについてお話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>小さな変化も随時報告・連絡・相談の徹底をし、情報の共有を図っている。必要に応じて看護師や医師に報告・相談し対応している。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬カードをまとめてファイリングし、スタッフがいつでも見られるようにしている。服薬内容が変更になった際は必ず目を通すようにしており、どのような変化が現れる可能性があるか、どの場面において注意・観察が必要かをスタッフ間、看護師で話し合い記録などで共有している。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの状況に応じて食事内容の工夫や散歩などに取り組んでいる。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>食後のうがい、歯磨きの声かけを行い促している。本人の状況や口腔内の状態にあわせ、介助が必要な方には内容を検討したり、モデリングしたりと環境を整え支援している。</p>	<p>○ 入居者全員に対して十分な口腔ケアが行えておらず自立度が高いほど十分とはいえない。歯科医と協力して定期的に歯科検診行うなど取組んでいきたい。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>記録に水分摂取量・食事量・内容を記入し、どの時間帯にどのようなものを好んで飲食しているか本人の傾向なども探りながら無理のないように支援している。また、水分量はおおよその目標を設けている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>	<p>入居者・スタッフ共に常に清潔を心がけ、うがい・手洗いの徹底を図っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日まな板の漂白をしている。台所周りで使うものは定期的に漂白し衛生管理に努めている。食材は賞味期限内に使いきれよう、あまり多くの食材を抱え込まないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇や玄関周りに花を植えたり、畑を整えるなど工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた飾り物やカレンダーなどで工夫している。	○	浴室の脱衣場を整頓し快適に入浴していただけるよう取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	できる限り入居者が心地よく過ごせるよう努めている。	○	和室の空間も利用できるようテーブルをおき、お茶をしたり、一人でくつろげることもできる場所とした。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には家具を含め全て本人が使い慣れたものを用意していただいている。家具の配置や居室の雰囲気などは、ご家族と相談しながら本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ちょうど良い温度・湿度を保つように努めている。体温の調整が難しくなっている方もいるためスタッフの体感も考慮し調整している。	○	よりこまめに換気が行えるよう環境整備に取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>必要最低限とし、階段・廊下・トイレ・浴室に手すりを配置している。空間の手狭さを利用してテーブルや柱を利用した移動が可能となっている。不安定なものはよけるなどして安全を考慮している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレには赤いマークや『便所』と書いた紙を貼っておくなど。一人ひとりの力を見極めながら介助は必要な方には混乱・失敗してしまう前に支援に入れるよう取り組んでいる。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭にベンチを置いたり花壇や畑を設置している。</p>	<p>○ 入居者が行きたい時に行って楽しめるよう畑の整備をすすめている所。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ②利用者の2/3くらい
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ②利用者の2/3くらい
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ②利用者の2/3くらい
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ③利用者の1/3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ②利用者の2/3くらい
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ②家族の2/3くらい

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>③たまに</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>②少しずつ増えている</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②利用者の2/3くらいが</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②家族等の2/3くらいが</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)